

国立病院機構熊本医療センター

No.193



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096)353-6501(代)
FAX (096)325-2519

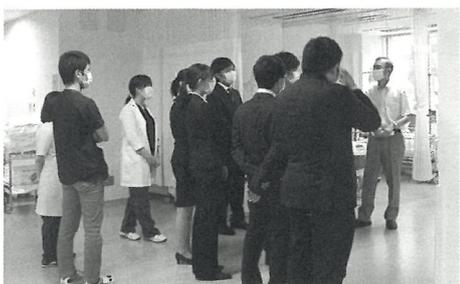
医学生の為の 臨床研修説明会が開催されました



臨床研修説明会の様子

6月8日(土)の午後に、医学生を対象とした臨床研修説明会が開催されました。8つの大学から計34名の医学生に参加していただきました。まず、河野院長の挨拶があり、高橋副院長から病院の全容、芳賀臨床研究部長から国立病院機構の取り組み、豊永教育研修科長から当院の臨床研修プログラム、井研修医から当院における臨床研修についての説明がありました。その後、病院見学を行いました。本年は初めてシミュレーターを用いた実習のデモをしました。高機能なシ

ミュレーターによる腹腔鏡手術、心エコー、診断学など興味深く見学していた様です。その後は意見交換会を行いました。各科の代表の先生にも参加していただき、それぞれの診療科の特徴や先輩としての進路のアドバイスもあり、和気あいあいと盛り上がりました。今回の参加者が、来年度は当院で一緒に診療が出来ます様には是非とも先生方のお力添えを宜しく願いいたします。
(教育研修科長 豊永 哲至)



病院内見学の様子



シミュレーター見学の様子

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営



「下肢動脈瘤の日帰り手術」

熊本血管外科クリニック
院長 宇藤 純一

上通町オークス通りに、下肢静脈瘤の専門クリニックを開業して早や3年が経ちました。以来、国立病院機構熊本医療センターの先生方には大変お世話になっております。小さな無床診療所ですので、すぐ近くに県内最高レベルの総合病院があるのは大変心強いものがあります。精度の高い診断や適確な救急対応などをさせていただき心から感謝しています。

下肢静脈瘤に対する根治的ストリッピング手術は、従来入院が必要とされていたのですが、当院では日帰りで行っています。ここ数年間でDay Surgeryの麻酔法や手術手技が急速に進歩したこともあり、下肢静脈瘤の治療体系はドラマチックに変化しています。欧米では手術の約8割が日帰りで行われていると聞きます。日帰り手術は患者さんにとって、身体的経済的負担も軽く、社会復帰が早いというメリットがあります。また社会全体にとっても医療経済学

的に有益な治療法であるといわれています。

初診時に超音波検査を行って静脈瘤の病型や手術適応を検討するのですが、より詳細な画像診断が必要なときには3D-CTやMRI検査を放射線科の先生にお願いしています。また自分一人だけでは治療方針を決めかねる時には、心臓血管外科の岡本実先生の外来を受診してもらいセカンドオピニオンを求めるときもしばしばです。経験豊富な岡本先生からのアドバイスは常に適確で秀逸であり患者さんからの信頼度も抜群です。

おかげさまで、開設以来3年間で1900例を超えるストリッピング手術をすべて日帰りで行うことができました。幸いなことに、これまで大きな合併症もなく多くの患者さんに喜んでもらっています。下肢静脈瘤の日帰り手術が広く社会に認められ、新たな治療法の選択肢となるよう、これからも安全で確実な手技の確立向上に努めていきたいと思っております。今後も有益で良質な病診連携を続けていけますよう、関係各位の皆様よろしくご指導をお願いします。



熊本血管外科クリニックスタッフ

FAX紹介での時間予約制をご活用下さい

日頃、多くの患者様をご紹介頂きまして誠に有り難うございます。紹介患者様の待ち時間を短くするためにFAX紹介で時間予約ができます。月から金の日勤帯です。

当院のFAX紹介用紙に受診希望日を入れてお送り下さい。担当者がカルテを作成し希望日に時間予約を取りましてFAXにて返信致します。是非、FAX紹介での受信日の指定と時間予約制をご活用して頂き、患者様の待ち時間短縮にご協力下さい。よろしくお願い申し上げます。

FAXの紹介用紙は、電話（代表096-353-6501 内線2360）またはFAX（医事096-323-7601）でご請求頂きますと、直ちにFAXにてお送り致します。また、後ほど改めてFAX紹介用紙を郵送致します。

ホームページからもダウンロード出来ます。

国立病院機構熊本医療センターホームページアドレス <http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>

（経営企画室長 織田 政継）

外来紹介

歯科口腔外科



歯科口腔外科外来スタッフ

歯科口腔外科は、中島部長のもと月曜日～金曜日の午前中はご紹介患者様を中心に外来診療を行っており、毎週火曜・木曜の午後を全身麻酔下での手術日とし、他曜日の午後も外来手術や入院患者様の診療を行っております。また、耳鼻咽喉科とは診察領域が共有する場合もあることから、より良い診療が行えるよう合同カンファレンスを実施し、両診療科での意見交換も行っております。

近年、歯科の役割にも変化が見られるようになってきました。

嚥下機能低下による誤嚥性肺炎などが多くみられ、入院患者様の嚥下機能評価（VEなど）が日々増加傾向にあります。

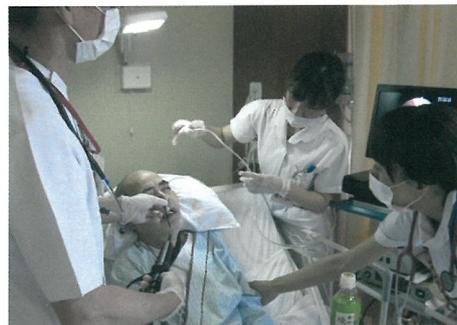
また、平成25年4月より「熊本県がん患者医科歯科医療連携事業」が開始され、がん患者様の周術期や化学療法・放射線療法開始前より歯科が介入することにより、口腔内トラブルを最小限に留める手助けを行う役割も担っています。一般的な歯科診療はもちろんのこと、この様な多様な診療内容にも対応できるよう、スタッフ一同日々努力しております。

また、当科の先生方はスポーツマン（ウーマン）が多く、平成24年より開催されている“熊本城マラソン”には2年連続出場し、フルマラソンを全員完走されており歯科口腔外科の恒例行事となりつつあります。

日々の診療に対応できる体力作りにも力を入れている(?)歯科口腔外科を今後ともよろしくご願ひ申し上げます。
(歯科衛生士 池田貴美子)



平成25年熊本城マラソンにて



入院患者様の嚥下機能評価の様子



摂食嚥下チーム

2013 診療科紹介 (61)

形成外科



医長
大島 秀男

形成外科、再建外科
先天異常（顔面、四肢）
頭蓋顎顔面外科、熱傷
眼瞼、眼窩形成
マイクロサージャリー
日本形成外科学会専門医
日本創傷外科学会専門医
日本熱傷学会専門医

診療内容と特色

形成外科は体表のあらゆる形態異常、外傷またそれに伴う機能異常を手術治療、創傷治療によって修復、改善する診療科目です。機能回復、生活の質（Quality of life）の向上をした専門分野であり、特定の臓器ではなく全身のあらゆる部位を治療対象としますので、他の診療科との境界領域も多く、共同診療の機会が多いのが特徴です。

形成外科で扱う分野には

1) 先天異常、2次的に生じた変形などの異常な形態を正常な形態にする（形を造る：形成外科）。口唇口蓋裂、小耳症、埋没耳、多指症、合指症など。
3) 外傷・熱傷、腫瘍切除などによる組織欠損の修復、現状回復をする（形を治す：再建外科）。顔面外傷・骨折、熱傷、腫瘍・母斑、顔面神経麻痺の表情再建、乳房再建など。
3) 正常な形態をさらに美しく修正する（形を変える：美容外科）。腋臭症、陥没乳頭、二重瞼、隆鼻など。
という3本柱があり、体表の形態異常、外傷全般の診療を幅広く行っています。手術においては先天異常、腫瘍・母斑、ケロイド癬痕、眼瞼形成、四肢・頭頸部再建を主体に美容外科の手法も取り入れて「きれいに治す」ことを目指しています。特にケロイド癬痕の治療では、手術に放射線療法を併用して再発を予防し、良好な成績が得られています。また平成18年6月からはQスイッチ・ルビーレーザーを導入し、メラノサイト系のアザ、シミの治療を開始しております。平成21年度には日本スキンバンクネットワークに加入するとともに熱傷ベッドが配備され、広範囲熱傷治療の充実が図られました。

最近が高齢化社会の為か、悪性腫瘍、難治性潰瘍・足病変や加齢性眼瞼下垂の患者様が増加しています。また救命救急センター（3次救急）が併設されている



医師
東野 哲志

形成外科一般、外傷、熱傷
褥瘡、陥入爪（巻き爪）
日本形成外科学会専門医



医師
万江 由希子

形成外科一般、熱傷
頭部顔面外傷、フットケア
日本形成外科学会

ため外傷症例も多く、顔面外傷・顔面骨骨折、熱傷などの救急医療にも力を入れています。熊本県の総合病院では有数の形成外科を標榜する施設であり、平成17年度より日本形成外科学会教育関連施設、平成21年度からは認定施設となり、形成外科専門医の教育機関となりました。現在3名で外来診療、手術、救急診療にあたっています。

診療実績

平成24年

外来新患：712名、紹介率：76.3%、1日平均外来患者数：13.3名

新入院患者：337名、1日平均在院患者数：10.2名、平均在院日数：10.9日

手術件数：372件（他科再建手術、外来小手術を除く）

研究実績

当科の臨床的研究テーマは創傷治癒と組織再生であり、これまで厚生科学ミレニアムプロジェクト「同種培養真皮による創傷治療の共同臨床研究」、国立病院機構共同臨床研究「効果的な幹細胞移植法」、国立病院機構大規模EBM研究「重症褥瘡Ⅲ度以上に対する局所治療・ケアの適切性に関する研究」に取り組み、その成果を国立病院総合医学会などで発表してきました。

ご案内

外来診療は月、火、木、金の午後、大島、東野、万江が担当しています。春休み、夏休みは就学児童の手術が集中する為、早めの御来院、御予約をお勧めしています。患者様の御紹介は直接お電話、ファックスを頂いても、患者様に紹介状を託して受診して頂いても結構です。時間外、救急診療はon call体制で対応しています。またスキンケアとしてQスイッチ・ルビーレーザーを導入し、シミ・アザのレーザー治療を行っております。

今後とも病診連携・病病連携を主体とした地域医療のネットワークの中でより良い医療を提供できるよう努力していく所存ですので、あらためて一層の御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

熊病の歴史

産婦人科

熊本医療センターの産婦人科の歴史は、昭和20年に熊本第一陸軍病院が厚生省に移管された時に、国立熊本病院として発足し、その1年後の昭和21年に産婦人科が開設されたのが始まりです。当初は、近所の方から、陸軍病院に女性の患者がなぜ？というような話もあったとのこと。

当初、進駐軍の指導で産科と婦人科を分離するよう指導があり、産科が移転しましたが、現実にはスタッフの増員はなく、結局は医師も看護師も兼務の形となり、病棟間の行き来も大変で、ハードスケジュールであったようです。昭和20年代ですので、いわゆるベビーブームが到来し、分娩症例数が年ごとに増加し、昭和28年には助産録も使用されるようになっていきます。

また、昭和21年に当院がインターン医師実施修練病院に指定され産婦人科にも多くの先生が勤務されました。

昭和32年に、松本欣一先生が医長として当科に赴任され4年間勤務されました。その1年後に、当院にがん診療センターが開設されました。この当時はインターン制度の影響もあり、当科に実に多くの先生が入れ替わり（当時の記録より確認できただけでも、先生は39名にものぼります）で勤務され、医師数が多く、患者さんの取り合いの感があったそうです。当時は、炎症性疾患、腫瘍性疾患、周産期と幅ひろい分野の多くの疾患が多数あったようです。

この頃は熊本大学病院におきましては、産婦人科入局希望者があまりにも多く、一部聞いた話ですが、産婦人科入局には制限（選抜制）が、かかった年もあったそうです。（信じられない！うらやましい話ですが。）

昭和36年になり、松山茂麿先生が医長として就任されました。先生は、婦人科悪性腫瘍を当科の診療の特色とすることを第一に掲げられ、当院における婦人科悪性腫瘍診療の基盤を作られました。当時の婦人科悪性腫瘍といえば、子宮頸癌！といっても良いくらいの時代で、婦人科悪性腫瘍の大半が子宮頸癌でした。昭和36年に40例だった子宮頸癌新患が、昭和50年には113例と大幅に増加したとの記録が残っています。昭和24年からは、子宮頸癌のラジウム治療が開始されています。当初は、ラジウムは大変高価なものとの認識はあっても、危険性に関しては十分な認識が無く、一般病室にて治療が行われていたとのこと。これも今では信じられない話ですが。昭和42年にラジウム治療室が病棟の西端に整備され、そこで初めて隔離

され放射線治療が開始されています。（下写真：旧館の4階、西2病棟の右奥、後方）



昭和58年には熊本大学から徳永達也先生が当院に医長として赴任され2人医長となりました。翌、昭和59年に私が当院に勤務いたしました。

松山先生は陸軍士官学校出の大変厳しい先生という話を、大学の先輩より聞いていましたが、実際は全く気取ったところのない先生で、多くの悪性腫瘍手術の指導を受けました。大変感謝しております。先生は、平成3年に定年退職されましたが、残念なことにその2年後に逝去されました。

平成4年からは、徳永達也先生が主任医長として引き継がれ当科の悪性腫瘍診療を、さらに充実したものにされました。先生は、大変温厚な方で周囲の信頼も厚く、いろいろと、私をはじめとして多くの後輩の相談にも気軽にのっていただき、適切なアドバイスをいつも頂いていました。

平成12年に徳永先生が退職された後、私が責任者となりました。多くの先輩諸先生の築かれた当科の伝統を守り抜くことが我々の責務であることを念頭に、診療に当たってきました。現在は、私と、西村弘医長、永井隆司医長、高木みか医師（育休中）、山本直医師の5人体制です。皆、婦人科腫瘍を専門にしたい先生ばかりで大変頑張っていただいています。多くの産婦人科同窓会および登録医の先生方のご紹介のお陰で、現在も年々、婦人科悪性腫瘍新患症例が増加の一途をたどっています。どこまでが受け入れ可能の限界かわかりませんが、我々の使命と肝に銘じ、やれるところまでやってみようと、全員で決意しています。今後ともご紹介よろしくお願ひ申し上げます。

【産婦人科部長 三森 寛幸】

新しい機器「超音波内視鏡」が入りました



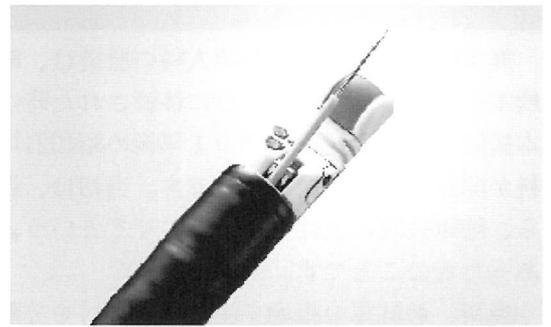
消化器内科医師
石井 将太郎

超音波内視鏡検査とは超音波による観察を行う内視鏡で、体外式超音波検査では観察困難な下部胆管や膵臓の微小な病変を描出する検査です。しかし、ただそれだけではありません。

2010年に保険収載された超音波内視鏡下穿刺吸引術（EUS-FNA）は、経消化管的に針生検をおこなうことで縦隔病変、膵病変、消化管粘膜下腫瘍から検体を採取し病

理学的診断を行うことを可能としました。

また検査だけではなく、2012年には超音波内視鏡下瘻孔形成術として保険収載された経消化管的膵仮性嚢胞ドレナージ、超音波内視鏡ガイド下胆管ドレナージ（十二指腸や胃から胆管を穿刺し、ドレナージを行います）及び神経叢ブロック術などの治療を行う時代となってきています。専用のデバイス（海外では既に市販されている）の開発など課題もありますが、今後発展していく分野であると確信しています。当センターでも本年から超音波内視鏡を駆使した治療を行っていきたいと思います。



超音波内視鏡と穿刺針



EUS-FNA

「村上記念奨励賞」を受賞しました

当院臨床検査科・輸血管理室に勤務する下川里美技師が、第61回日本輸血・細胞治療学会総会にて村上記念奨励賞を受賞しました。この村上記念奨励賞は前年度の認定輸血検査技師の認定試験合格者の中で、上位2名の成績優秀者に与えられる賞です。認定輸血検査技師制度は輸血治療を行う際に種々の副作用・合併症を伴い易く、深い知識、的確な判断力と技術が要求される為、輸血に関する正しい知識と的確な輸血検査により、輸血の安全性の向上に寄与できる技師の育成を目的として導入されました。受験資格は輸血検査歴3年、他の検査歴も含め5年以上の検査業務経験が必要であり、学术论文、学会発表など輸血に関した各種学



村上記念奨励賞を受賞した下川技師



「村上記念奨励賞」受賞の様子

会、講演会及び研修会への参加により、認定輸血検査技師申請の資格審査基準に達していることが必須です。試験は一次試験（筆記）と二次試験（筆記、実技）がありともに合格しなければなりません。例年、難易度が高く合格率は今回も受験者253名中、合格者は50名（合格率19.7%）でした。今回の受賞は本人の日々の努力、研鑽の賜です。今後は輸血検査に携わる技師の知識・技術向上のためにも良き指導者として活躍されることを期待します。

（臨床検査技師長 橋本 龍之）

最近のトピックス

救命救急・集中治療部、糖尿病内分泌科に 人工膵臓 (STG-55) が導入されました。」



救命救急科医長

原田 正公

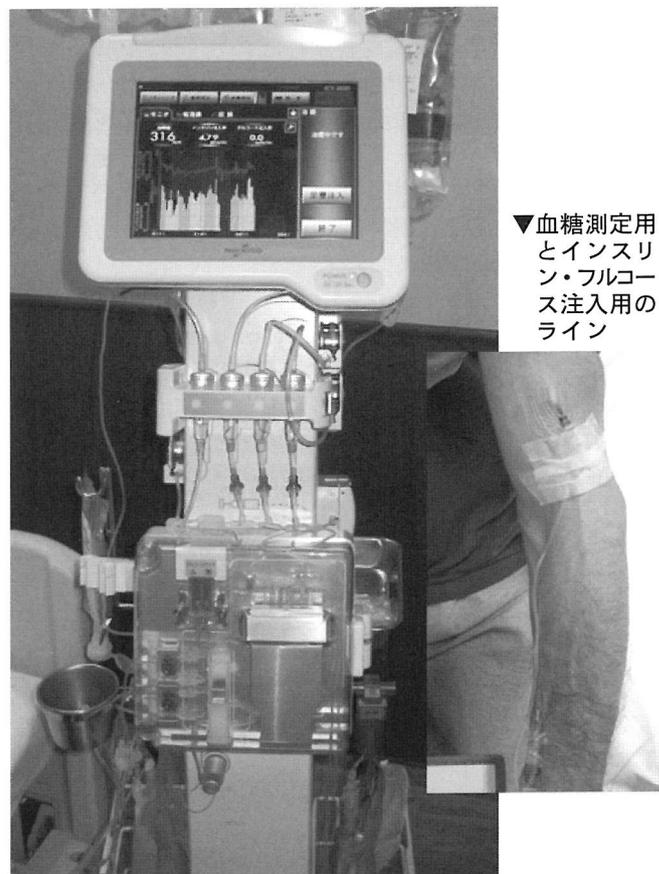
平成25年3月、当院にベッドサイド型人工膵臓 (STG-55) が導入されました。人工膵臓は、熊本大学代謝内科の前教授の七里元亮先生が長年研究・開発に関与されましたものでもあり、本機はSTG-11A (第1世代)、STG-22 (第2世代) の後の第3世代のものとなります。

人工膵臓とは、患者様の静脈から連続的に微量採血し、一定の比率で希釈したのちに血糖を測定し、得られた血糖値情報に基づき、インスリンおよびグルコースを静脈に注入する装置です。

従来の血糖管理は間欠的な人手による血糖測定であり、より厳密にコントロールしようとするれば、必然的に頻回の血糖測定を行わねばならず、さらにどうしても低血糖のリスクが付きまといました。しかし、人工膵臓を用いた血糖管理の場合には連続測定かつ自動測定でありますので、非常に楽に連続的な血糖測定を行うことができるのみならず、一点の血糖値のみではなく、血糖値の動きも加味したインスリン注入量の計算が行われ、さらには血糖が低下した場合には自動でグルコースも注入されますので、厳密でかつ安全に血糖管理を行うことができます。

この人工膵臓を用いますと、糖尿病内科分野においては、グルコースクランプ法を用いた厳密なインスリン抵抗性の評価が可能となり、より正確に糖尿病の病態の診断を行えます。

また、救命救急・集中治療分野や周術期管理分野に



▼血糖測定用とインスリン・フルコース注入用のライン

▲動作中の人工膵臓
パネルには血糖値、インスリン注入量、グルコース注入量が表示されています。

においては近年厳密な血糖管理の重要性が注目されています。たとえば敗血症の患者様や外傷や外科的侵襲を受けた患者様は糖尿病がなくても非常に血糖値が不安定となりますが、人工膵臓を用いますと、人手をとらずに、低血糖を回避しつつ厳密な血糖管理を行えますので、これらの患者様の予後を改善することが期待できます。

まだ導入後間もないため、使用経験も数えるほどしかありませんが、少しずつ症例を積み重ねて、血糖管理が必要な多くの重症患者様の救命率向上につながればと考えております。

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ75回



「人工呼吸療法における加温加湿器の性能の検証」

麻酔科臨床工学技士 北川 哉

【背景】

人工呼吸療法時の気道加湿は、体温によって吸入気が水蒸気で飽和されて加湿されたのと同じ組成のガス(温度37.0℃、絶対湿度44mg/l)が必要です。当院での人工呼吸療法時の加温加湿は、通常人工鼻を使用しています。しかし、人工鼻で加湿が不足する場合、加温加湿器に変更する運用にしています。現行の自動加温加湿器MR850と従来の加湿器MR410(手動調整)で性能を比較検証しました。

【方法】

MR410とMR850を使用し、moi scope(泉工電工製)にて1回換気量を400mlから100mlずつ1000mlまで上げた時のカテーテルマウント先端の温度と絶対湿度を測定。

1) MR410での温度・絶対湿度の変化

MR410カテーテルマウント先端での各一回換気量での各加温設定目盛による温度、絶対湿度は、37.0℃、44mg/lを達成することはありませんでした。

2) MR850での温度・絶対湿度の変化

MR850での各一回換気量による温度はすべて37.0℃以上であり、絶対湿度もすべての測定部位で44mg/l以上を達成していました。

【考察】

MR410では、加温加湿必要条件の37.0℃、44mg/lを満たすことができないことがわかりました。チャンバー出口より先では加温することなくガスが流れていくため当然温度低下が起き、水蒸気は飽和することができずに呼吸回路などに結露し、飽和水蒸気として残らないためと考えられました。一方、MR850を用いた加温加湿はすべての条件で37.0℃、44mg/l以上を維持できました。これは、チャンバー出口とYピースの温度センサーにより、チャンバー、吸気側回路のヒーターを自動調節することにより吸気側回路内での結露発生を低減し、むしろ40℃、44mg/lに加温して水蒸気を飽和させたままガスを送り、温度低下しても最適湿度のガスを送ることができるようになっているためです。今回の測定ではYピースとカテーテルマウント先端での温度低下は平均1℃程度でしたが、実際には挿管チューブの長さも考慮しなければならず、もう少し温度低下しているはずです。

【結語】

MR850ではMR410と比較して、吸気側回路にヒーターを内蔵し、口元ひいては患者気道に最適湿度のガスが送れるように自動調整されていることが確認できました。人工呼吸療法で加温加湿を行う場合、従来のMR410よりMR850が有用であることが確認できました。

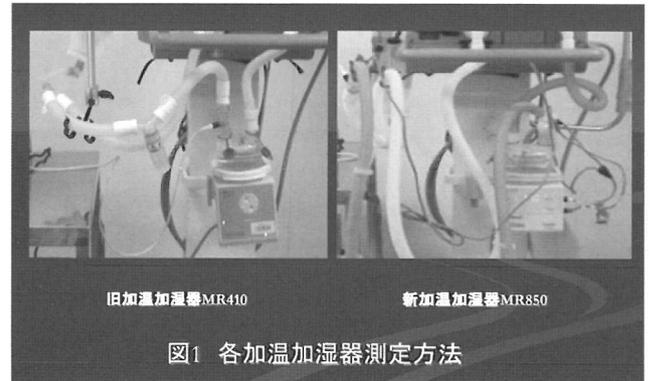
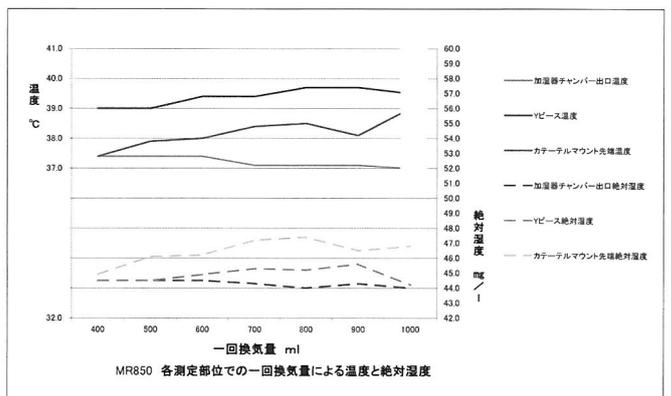
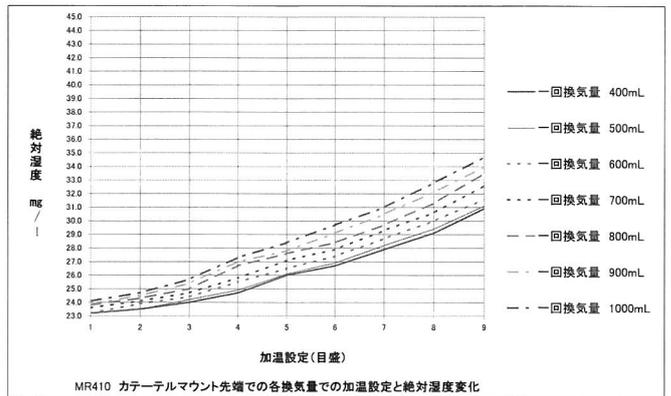
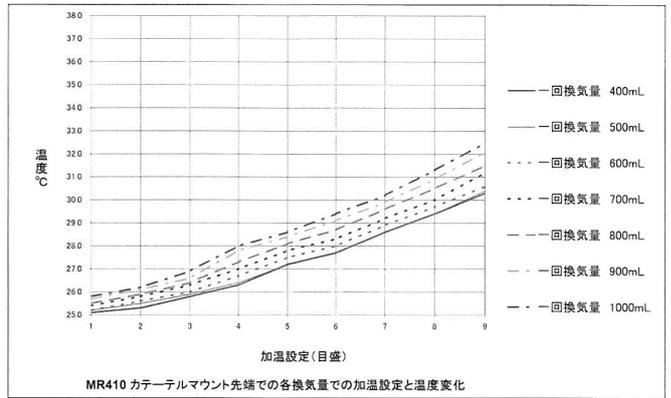


図1 各加温加湿器測定方法



「タイコンケン病院スタッフ研修」来院報告

平成25年6月6日タイからコンケン病院訪問団が来日しました。平成21年11月16日の当院との姉妹協定締結以来4回目の来熊となります。今回は昨年12月に当院からの訪問団が参加した第1回コンケン病院・熊本医療センター国際カンファレンスに続き、7日（金）当院研修センターホールで「タイと日本の救急医療、悪性腫瘍治療、そしてレトロウイルス疾患」と題した第2回の国際カンファレンスを開催しました。院外の熊本大学から8名、崇城大学から5名等を含む150名近くが参加、運営に加わってくださり、セレモニーから発表、そして質疑応答に至るまで全て英語で行われました。これは、グローバル化の進む世界の今後を見据えて、医師だけでなく、看護師やコメディカル、そして事務職間で知識や技術を共有し、建設的な意見を交換するという主旨に基づくものです。

今回来日したコンケン病院メンバーは右記の13名です。それぞれの分野別にグループを編成し、積極的に熊本の医療を見て聞いて回りました。

熊本県庁表敬訪問



熊本市役所表敬訪問

熊本市消防局訪問



国立病院機構熊本医療センター会議室にて

外傷および救急医療

ドクター ウィタヤ（外傷救急センター長、副院長）
ドクター ニラモン（感染症対策部長）
ドクター ナルディー（救急部長）
ドクター ソムキッ（整形外科部長）

電子カルテ

ドクター ナータヤー（病院支援サービス部長、耳鼻咽喉科医師）
ドクター ベンジャポン（薬剤師）
ミス チャウィーワン（産科看護師長）
ミス ヤオワマン（人材開発部看護師、コンケン病院コーディネーター）

高齢者ケア

ミセス プライワン（内科病棟看護師長）
ミセス ドゥアン・ガム（タイ作業療法士協会会長）
ミス プッターチャー（理学療法部長）

ビル管理

ミスター サワッ（資材部長）

コーディネート（全般）

ミセス マンタナ（臨床検査科技師）



第2回コンケン病医・熊本医療センター国際カンファレンスでの訪問団メンバー紹介

今回は、見学研修でも当院内だけでなく、熊本市消防局、青磁野リハビリテーション病院、イエズスの聖心病院、熊本機能病院、桜十字病院の関係皆様には、貴重な御時間を頂戴し、大変お世話になりました。今後も続く熊本を中心とした国際医療協力に御協力いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

（国際医療協力室 武本 重毅）

研修医レポート

臨床研修医

さかもと かず ひ こ
坂本 一比古



こんにちは、研修医1年目の坂本一比古と申します。熊本大学医学部を卒業し、4月より熊本医療センターにて初期研修させていただいております。研修医生活も3か月目に入りまして少しずつ生活や仕事にも慣れてきましたが、まだまだ不慣れな点などありまして日々奮闘しております。

私は4月より糖尿病・内分泌内科を2ヶ月ローテートし、現在循環器内科にてお世話になっております。糖尿病・内分泌内科では医師としてのあり方や患者さんとの接し方、看護師さんとの仕事の連携など働く上で必要なことを多々学びました。診療の面では糖尿病

患者へのインスリン量調整や内服の組み合わせ変更を日々の血糖値の推移を観察しながら行ったり、合併症精査のコンサルトなどを行いました。また、内分泌疾患鑑別のための負荷試験を行ったり、電解質異常に応じた投薬なども学ばせていただきました。

循環器内科では現在心臓カテーテル検査やペースメーカー交換などの介助に入らせていただいております。まだ1週目であり手技を十分に覚えることはできていませんが、治療によって狭窄していた血管が広がり症状が軽快するといった様な人の命を救う瞬間を目のあたりにしながら刺激的な日々を送っております。また現在の内服薬の目的や予後に関するエビデンスなどを意識的に学びながら、疑問なども指導医の先生が丁寧に考え方を説明してくださり、とても勉強になっております。

循環器内科の後は外科、消化器内科、麻酔科、呼吸器内科をローテートすることになっています。多くの手技、治療を学びながら医師として成長していきたいと思っております。今後ともよろしくご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

臨床研修医

かく ち え み
加来 知恵美



こんにちは。研修医1年目の加来知恵美と申します。研修が始まってあっという間に2か月が経ち、ようやく新生活にも慣れてきました。

私は、最初の2か月間を循環器内科で研修させていただきました。循環器内科では心筋梗塞や心不全など、循環器疾患の入院から退院までの一連の流れを学ぶことができました。患者さんの全身状態にあわせて、慎重に薬の選択や用量調節を行い、さらに患者さんの背景や周りの環境を考慮した治療法を選択するなど、治療の考え方を学ぶことができました。実践するにはまだまだ経験も勉強も足りませんが、これからの研修の目標となりました。また手技の面では、心臓カテーテル検査でスワンガンツカテーテルの挿入や操作、エコー

でのIVCや心臓の評価法を学びました。心臓血管外科の手術にも入らせていただくことができました。

この2か月間は他にも、患者さんとの接し方や、スタッフとの報告、連絡、相談の重要性など、医師としてこれから働くために必要な様々なことも学ばせていただきました。研修が始まって最初のころは、わからないことだらけで戸惑うことばかりでしたが、指導医の先生や2年次研修医の先生、看護師さんをはじめスタッフの皆さんがやさしくご指導くださり、少しずつですが成長を実感できています。

現在は麻酔科で、術前診察、術中管理、ルート確保、気管挿管、麻酔などを学ばせていただいております。研修医が積極的に医療行為に参加でき、指導のもとで手技を実践していけるため、毎日学ぶことが多くとても充実した日々を送っています。

まだまだご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、一日一日成長できるよう一生懸命頑張りますので、これからもご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

■ 研修のご案内 ■

第78回 特別講演（無料）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成25年7月3日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター 副院長 片淵 茂

「神経障害痛の治療戦略」

熊本大学大学院生命科学研究部麻酔科学教授 山本 達郎 先生

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代表) 096-353-3515(直通)

第174回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成25年7月8日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
2. 持ち込み症例の検討
3. 症例検討「ダウン症と白血病」 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 岩永 栄作
4. ミニレクチャー「超音波内視鏡の進化」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科 石井将太郎

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL: 096-353-6501(代表) FAX: 096-325-2519

第33回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成25年7月13日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：南阿蘇原眼科 院長／熊本県医師会理事 原 敬三 先生

演題：「顔面の抗加齢医療」

1. 白内障の治療 国立病院機構熊本医療センター眼科部長 近藤 晶子
2. 眼瞼下垂の治療 国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 大島 秀男
3. スキンケアについて 国立病院機構熊本医療センター形成外科 万江由希子

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

第142回 三木会（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成25年7月18日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「糖尿病ケトアシドーシスの治療および精査中に膵臓癌の多発転移を発見された一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科
橋本章子、坂本和香奈、深田理沙、坂本一比古、渡辺美穂、高橋毅、豊永哲至、東輝一郎
2. 「糖尿病ケトアシドーシスおよび甲状腺クリーゼを合併した一例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科
坂本和香奈、深田理沙、坂本一比古、渡辺美穂、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一郎

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎 TEL 096-353-6501(代表) 内線5705

第111回 総合症例検討会（CPC）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成25年7月24日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：『筋萎縮性側索硬化症の臨床経過と感染症との戦い』（60歳代 男性）
臨床担当） 国立病院機構熊本医療センター救命救急部 櫻井 聖大
病理担当） 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長 村山 寿彦
「平成12年度発症、平成16年に診断された筋萎縮性側索硬化症の男性の臨床経過と、当院での感染に対する治療を追っていきます。」

* 臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー（解説）の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表) 内線2630 096-353-3515(直通)

2013年 研修日程表 7月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

7月	研修センターホール	研修室	その他
1日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
2日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
3日(水)	19:00~20:30 第78回 特別講演 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 座長 国立病院機構熊本医療センター副院長 片瀨 茂 「神経障害の治療戦略」 熊本大学大学院生命科学研究部麻酔科学教授 山本 達郎		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
4日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「輸血の実際」 国立病院機構熊本医療センター特殊疾病研究室長 武本 重毅		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
5日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
8日(月)	19:00~20:30 第174回 月曜会(内科症例検討会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
9日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 19:00~21:00 泌尿器科・放射線科合同プログラム C1
10日(水)	18:00~19:30 第81回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
11日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「救急での胸腹部CT」 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 根岸 孝典	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
12日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
13日(土)	15:00~17:30 第33回 症状・疾患別シリーズ 【日本医師会生涯教育講座2.5単位認定】 座長 南阿蘇原眼科院長/熊本県医師会理事 原 敬三 「顔面の抗加齢医療」 1. 白内障の治療 国立病院機構熊本医療センター眼科部長 近藤 晶子 2. 眼瞼下垂の治療 国立病院機構熊本医療センター形成外科医長 大島 秀男 3. スキンケアについて 国立病院機構熊本医療センター形成外科 万江由希子		
16日(火)	19:30~20:30 第28回 熊本県・熊本下りハセリテーションセミナー 「在宅での摂食嚥下障害」 熊本リハビリテーション病院・言語聴覚士 山本 詩織 共愛歯科医院・歯科医師 園田 隆紹		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
17日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
18日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「救急での頭部CT・MRI」 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 根岸 孝典 14:00~15:00 第4回 市民公開講座 「髪の毛のはなし」 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 牧野 公治	19:00~20:45 第142回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 【日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2>・0.5単位認定】	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
19日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
20日(土)	13:00~15:30 第129回 看護卒後研修 「看護現場学」 済生会横浜市南部病院 院長補佐 陣田 泰子		
22日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
23日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
24日(水)	19:00~20:30 第111回 総合症例検討会(CPC) 【日本医師会生涯教育講座1.5単位認定】 「筋萎縮性側索硬化症の臨床経過と感染症との戦い」		7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消
25日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「放射線治療の実際」 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 富高 悦司	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 7:50~9:00 整形外科症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 糖尿病・内分泌内科カンファレンス C2
26日(金)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 麻酔科症例検討会 手 8:00~9:00 消化器病研究会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
27日(土)	9:00~15:50 第28回 ナースのための人工呼吸セミナー 1. 呼吸生理と血液ガス 2. 呼吸管理と看護のポイント 3. 慢性呼吸不全に対する非侵襲的人工呼吸と管理 4. 各種病態における呼吸不全の治療	琉球大学医学部救急医学教授 久木田一朗 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長 瀬 賢一郎 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科部長 柏原 光介 山口大学大学院医学系研究科救急・生体複製制御医学分野教授 鶴田 良介	
29日(月)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 8:00~8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 6西
30日(火)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 15:00~16:30 血液病懇話会 C2 15:00~18:00 外科術前症例検討会 C1 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北
31日(水)			7:45~8:15 外科術後症例検討会 6東 16:00~17:00 循環器カンファレンス 6北 17:00~18:30 血液形態カンファレンス C2 17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス 消

研1~3 2階研修室1~3 C1・2 3階カンファレンスルーム1・2 5西 5階西病棟 6東 6階東病棟 6西 6階西病棟 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読書室 手術室

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ (<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>) をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)